



問 町の人口増に期待

答 町の特徴をアピールしていく

問 大木町の人口は1万4,500人を前後しながら推移し、大溝校区は住宅化が進み、駅から大溝小学校までの間に一戸建てが並んでいる。

反面、町営住宅も古くなり一部売却ということが進んでいるが、今後、町営住宅建築の見込みは。

また、雇用促進住宅は、空き部屋ばかりだと聞く。町の人口が増えればもって活力ある大木町になるのでは。

町長 人口は町の活力の源泉とも言ふべきものであり、今後、我が国全体の人口減少が見込まれる中、少子高齢化の進行に的確に対策を講じることは、本町においても喫緊の課題と考えている。

これまでも重点的に取り組んできた子育て支援を一層推進するほか、男女共同参画社会の実現や高齢者対策、新規就農支援などの施策を総合的に推進して、町民の皆様が大木町での暮らしのよさを実感するための住みよいまちづくりに取り組んでいく必要がある。他方、近年、町内に、新たな分譲住宅やアパートなどの集合住宅の立地が見られ、

主に町外からの転入者には、地域のコミュニティに円滑に参加してもらおうことが重要で、そのため環境整備にも努めていく。

町営住宅は、築47年を経過し、老朽化が進み、用途廃止に向けた説明を入居者に行つたところ、払い下げの要望があり、現在の入居者への払い下げを行うため、土地の測量及び評価調査などの作業を進めている。

また、雇用促進住宅は、管理者の独立行政法人高齢・障害・求職者雇用促進支援機構で、平成33年度までに譲渡または廃止され、現在、原則入居を受け付けていない。

問 人口増の方策は。

町長 人口増が活力の活性化とはよくわかつている

が、基本的に公営住宅等建設して人口を増やすという計画はない。大木町独自の暮らしよさを町外から来ていただく方に実感していただくまちづくりをして、町の施策を理解决して大木町に住んでいただくのが一番の理想。大木町は県南地域の中でも極めて人口減少が少ない地域である。西鉄電車があるという利便性、

子育て支援の充実など、皆様に支持される部分がある。町の特徴をアピールしながら、直接的ではないが、人口増に結びつけるような取り組みをし、人口増に結びつけたい。

問 柏原団地跡地利用は、町の人口増に期待して住宅を建て直しては。

町長 県営柏原団地跡地は、福岡県との売買契約で、10年間公園の用に使用すること及び第三者に転売しないことが条件とされ、評価額から50%の減免が講じられた。

したがって、県営柏原団地跡地の利活用は、町民の健康づくりや子供たちのスポーツ活動の場、災害時での避難場所として利用できる運動公園を整備する計画になる。

問 442号バイパスを筑後市から大木町に入ると、草が茂っているのが一番先に目に入り、観光客や通られる方に悪いイメージを与える。道の駅も客が増えている中、町の顔でもあり、今後しっかり管理をお願いしたい。また、イオンスーパーの東側の開発は。

産業振興課長 イオンスーパーセンター東側土地は、社会経済状況の変化等を理由に開発整備が滞り、雑草繁茂の状況となっている。町のイメージダウンにもつながりかねない。

早速、イオン九州株式会社の開発本部に当該土地の開発計画の確認を行ったところ、現在、新たなテナント事業者の誘致計画が進行中である。イオンスーパーセンターの現在の駐車場部分を含め一体的な開発整備計画もあり、近々に東側の土地は事務所、駐車場等が整備される計画である。



県営住宅大木団地